

平成26年度 第1回食の循環によるまちづくり推進委員会 議事録

日 時：平成26年6月24日(火) 午前10時00分～正午

会 場：市本庁舎3階 会議室

出席者：10名

出席委員	佐藤ミネ委員、中村明委員、宮尾俊輔委員、佐藤恭子委員、中野浩一委員、高橋賢司委員、渋谷知明委員、津村賢委員、下條莊市委員、関根暁子委員
事務局	宮崎企画政策課長 寺尾課長補佐 企画政策係(高山係長、吉田主任、大淵主事)

(欠席委員)

三田村秀之委員、中村和浩委員、高山廣伸委員、阿部慎委員、藤田健委員、小野洋平委員、佐藤渉委員

1 開会

2 あいさつ

【事務局長】

本日は、お忙しい中お越しいただき感謝する。私は、平成14年度より5年間、有機資源センターの計画、建設、運営に携わり、その後、平成19年度に学校教育課に食育推進室が設置されてからは、「食とみどりの新発田っ子プラン」や、「食品残さのリサイクル」に携わった。委員の皆様の中には、当時からお世話になっている方が大勢いらっしゃる。今後もお世話になるが、どうぞよろしく願います。

さて、本日は第1回新発田市食の循環によるまちづくり推進委員会なので、今年度の事業計画を中心として、委員の皆様それぞれの立場からの多様なご意見を頂戴したいのでよろしく願います。

3 議事

(1) 推進委員会について

【事務局】

(資料1に基づき説明)

(2) 委員紹介について

【事務局】

本日は、初顔合わせなので、委員の皆様から自己紹介をしていただきたい。

【A 委員】

食生活改善推進委員協議会の会長をしている。私は「食の循環によるまちづくり」には当初より携わっているので、よろしく願いしたい。

【B 委員】

新発田市保健自治会の常任理事をしている。今回、初めて参加するが、よろしく願いしたい。

【C 委員】

菊水酒造の研究開発部から参加する。商品の開発と各種イベントの企画、運営をしている立場から、「食の循環によるまちづくり」に協力したいと思っているので、よろしく願いしたい。

【D 委員】

NPO 法人ユ－＆ミーの会の理事長をしている。「食の循環によるまちづくり」には、当初より携わっており、自身の活動も16年続いている。また、今年度は、内閣府の食育白書において、全国9団体の中の1団体に選ばれた。よろしく願いしたい。

【E 委員】

新発田市農業士会の代表として参加する。今年度よりお世話になるが、よろしく願いしたい。

【F 委員】

長徳寺から参加する。私は料理教室の講師を務めている。よろしく願いしたい。

【G 委員】

農業をしている。よろしく願いしたい。

【H 委員】

有機の里交流施設運営協議会から参加する。皆さんと一緒に頑張っていきたいので、よろしく願いしたい。

【I 委員】

新発田商工会議所から参加する。よろしく願いしたい。

【J 委員】

新発田ガスから参加する。よろしくお願ひしたい。

(3) 役員選出について

【事務局】

これから委員の皆様の互選により、役員を選出していただきたい。

委員の皆様から、何かご意見等あるか。

【I 委員】

昨年度まで役員を務められた方に引き続きお願ひしたい。

【事務局】

昨年度までの役員をご紹介する。委員長は下條莊市委員、副委員長は佐藤ミネ委員、監事は津村賢委員と関根暁子委員。以上の4名の皆様に引き続き役員をお願ひしたいとのご意見である。

【一同】

承認

【事務局】

それでは、委員長になられた下條莊市委員、副委員長になられた佐藤ミネ委員からご挨拶をお願ひする。

【下條委員長】

委員長をさせていただく。組織体制ががらりと変わり、構成メンバーの人数が半分くらいになった。市職員枠も設けておらず、非常にスリム化した感じがする。昨年度までは小委員会を設置していたため、意思決定に時間がかかったり、小委員会と推進委員会全体の意見が一致せずギクシャクした場面があったが、今年度は全体会議ですべて決定できる。お世話になるが、よろしくお願ひしたい。

【佐藤ミネ副委員長】

皆様の力をお借りして頑張りたい。よろしくお願ひしたい。

【事務局】

ここからの進行については、下條委員長に進めていただきたいので、よろしくお願ひする。

(4) 平成 2 5 年度事業報告及び収支決算について

【下條委員長】

このことについて、事務局より説明願う。

【事務局】

(資料 2 に基づき説明)

【下條委員長】

続いて、平成 2 5 年度に監事を務められた関根委員より、監査報告をお願いする。

【関根委員】

食の循環啓発事業の受託に係る平成 2 5 年度会計について監査したところ、収入支出とも適正であり、正確に処理されていたことを確認しました。

【下條委員長】

事務局より平成 2 5 年度の事業報告、収支決算についての説明があった。

質問等あれば発言していただきたい。

【一同】

(なし)

(5) 平成 2 6 年度事業計画案及び予算案について

【下條委員長】

このことについて、事務局より説明願う。

【事務局】

(資料 3 に基づき説明)

【下條委員長】

大きく分けて「食の循環しばたリレートーク」、「しばた食の循環応援団の活用」、「食の循環しばたモットイナイ運動」、「食の循環によるまちづくりのイメージアップ」の 4 つの事業がある。

昨年度の第 3 0 回食の循環しばたリレートークは、佐藤初女先生を講師にお招きしたが、来場者が会場に入りきらないほどの大盛況だった。有名人を講師にすれば、それなりの集客は見込めると思うが、講演内容は「食の循環」に関連のあるものでなければ、ただの人集めにすぎない。

まずはリレートークについて、委員の皆様のご意見をお聞きしたい。

【D 委員】

第1回リレートークから知っているが、ほとんどが単なる人集めであり、新発田市の「食の循環によるまちづくり」をテーマにした講演は過去に一度もなかった。これでは市民の税金の無駄使いだと思う。私は、新発田市が「食の循環によるまちづくり」に取り組んでいることをもっと市民にPRし、市民参画を図っていききたい。

また、来場者には市外の方も多く、講師が好きだとか、かっこいいから来たとか、そういった声しか聞かない。そして、肝心の「食の循環」についてはほとんど理解していないように見える。

【下條委員長】

昨年度のリレートークの来場者には、市外の方々がずいぶん多かった。それだけ人気のある講師をお招きしたという事だとは思うが、やはり有名人は、自身の講演パターンがある程度決まっており、新発田市の「食の循環によるまちづくり」のことに言及してくれないことが多い。それでは講演会を開催した甲斐が無いと、私も常々思っていた。

【H 委員】

講師をお招きし、ただ喋ってもらうのではなく、一度は「食の循環によるまちづくり」の現場を見た上で講演をしていただくと、より内容に深みが出ていいと思う。

【J 委員】

子育て世代をターゲットにしたのは大変良いことだと思う。「食の循環によるまちづくり」の活動対象を見ると、農村部が多い印象だが、それ以外の市民にも浸透させられるような内容で活動したい。

また、子育て世代はファストフードや外食産業を利用しがちだが、できるだけ地場産食材を使い、自分なりの家庭の味が出せるような仕組みを作ることで、より一層新発田を愛してもらえと思う。

【I 委員】

「食の循環によるまちづくり」の取組紹介などを講演に関連付けて行っていきたい。

【F 委員】

これまでの講師は、例えば料理研究家など「調理」に携わる方が多かったが、「食の循環」の各過程での、「残さ処理」や「肥料づくり」に焦点を当てた講演を聞けば、市民は「食の循環によるまちづくり」の実践がしやすくなると思う。

【B 委員】

私は、過去に講師にお招きした、料理研究家の辰巳芳子先生に影響を受け、辰巳先生が関わっている「食の検定」を受験した。これまで「食」に関しては無知な私だったが、「食」の全般的なことを学ぶことができ、辰巳先生に良い影響を受けた。

新発田市の「食の循環によるまちづくり」は非常に進んでいるので、積極的に PR していきたい。

【C 委員】

予算全体に占める「食の循環しばたりレトーク」の予算の割合が大きいため、十分に費用対効果のことを考えた上で、“市民の食の循環によるまちづくりへの理解を深める”という事業目標に見合った講演会にしたい。

また、市民の皆さんは「調理」や「食事」に興味があると思うが、「食の循環によるまちづくり」への理解を深めるのであれば、それ以外の「栽培」などをテーマに講演会を開催することも効果的だと思う。

【E 委員】

定年退職した後に、家庭菜園で野菜作りを始める人が多い。市民農園でも野菜作りをする人をよく見かける。「食の循環」を理解するには、実際に自分で野菜などを作ってみるのが一番手っ取り早いと思う。そのため、リトークで家庭菜園の講習のようなことをしてみても面白いと思う。

【下條委員長】

希望する講師について、来場者にアンケートを取ったことがあったが、やはりテレビによく出演している有名人が多かった。例えば、タレントの速水もこみち氏を講師にお招きすれば、市民文化会館に入りきれないくらいの人が集まるだろうが、講演内容と「食の循環によるまちづくり」との間に関連性を作れるかどうか。講演で「食の循環によるまちづくり」や、新発田市の良いところなどについて言及してもらうことが大事。そして、講演を聴いた市民に、家庭で「食の循環」を実践してみようと考えてもらえれば、やった甲斐がある。また、子どもに「食の循環」を教えるためには、やはり子育て世代からだと思う。

【事務局】

委員の皆様から貴重なご意見をたくさんいただいた。

平成19年度に、東京農業大学の教授を新発田市にお招きし、講演やイベントなどを開催したことがあった。講師には、米倉で地場産農産物などを食べた後に講演をしていたが、やはり新発田市のことに言及してくれた。このように、講演前に新発田市のことを知ってもらうことで、実のある講演会になると思う。

【H 委員】

来場者数は、毎回、講師によって異なるが、最初に有名人を呼んで人を集め、最後に応援団等を活用し講演を締める、という構成がいいと思う。また、一度来てくれた方が、次回も来てくれるような仕組み作りも必要。

【下條委員長】

開催日等を決定すれば、事業スケジュールを組むことができる。まずは事務局に案を作成してもらい、その後、事務局案を踏まえ、第2回会議で検討を進めることとする。

皆様から非常に良い意見が出たが、特に E 委員の意見は見過ごすことができない。非常に若い方の発想で、見る目が違うと感じた。定年を迎え、家庭菜園を始めた方への講習は、生きがい作りになるだけでなく、残さを堆肥に利用することにより、「食の循環」を身近に体験できる。

【B 委員】

運営の話だが、生涯学習センターの音響設備の問題で、講師によっては声が聞き取りづらいことがある。どれだけ良い講演でも、伝わらなければ意味がないので、よく聞こえるような工夫をしたい。

【下條委員長】

「しばた食の循環 応援団の活用」、「食の循環しばたモッタイナイ運動」、「食の循環によるまちづくりのイメージアップ」について、ご意見等あれば発言をしていただきたい。

【D 委員】

私が所属している NPO 法人では、有機資源センターの堆肥を使用し、毎年、幼稚園・保育園児や小学生にゴーヤなどの農作物の作り方を教えている。幼稚園・保育園や子ども達の保護者からは、子どもがゴーヤを食べるようになったと感謝される。食べ残しから作った堆肥を使っているんだよ、と子ども達に教えている。

また、五泉市で新発田市の堆肥を紹介した時、食品残さや家畜ふんを使っているのに全くにおいがしない、素晴らしい取組だ、と言われ、その後、堆肥を購入していただいた。新発田市の「食」は、市外から非常に認められている。

また、市内の小学校で子ども達と一緒にさつまいもを作っている。畑を耕し、さつまいもを植え、草取りをし、収穫をする。そして収穫を終えると子ども達は料理を作って私たちを招待してくれるし、葉っぱはウサギのえさにするそうで、まさにこれが「食の循環」だよ、と子ども達に話している。子ども達に「食の循環」を PR する場をもっと作っていきたい。子どもに叱られて初めて気づいた、という保護者も多い。子どもから教えられることにより、保護者も納得してくれる。

また、市の環境衛生課や市内の11町内会と一緒に、有機資源センターや農家を訪問する予定もあるが、このような、きちんと分別しなければならないことを市民が学ぶ機会をもっと増やしていきたい。そして、有機資源センターの堆肥を使用した野菜だと見て分かるようにシールを貼るなどして販売すれば、農家のやりがいになると思うので、そのようなことも検討したい。

【下條委員長】

「食の循環によるまちづくりのイメージアップ」は、小学生の児童などを対象とするのもよい。親から子どもではなく、子どもから親に教えていくという流れは非常によいと思う。イメージキャラクターの活用だけでなく、子どもを対象としたイメージアップの方法も検討したい。

話を戻すが、リレートークの講師選定及び開催日決定の期限はいつ頃か。

【事務局】

お招きする講師にもよるが、時間に余裕を持って調整をしたいので、目安としては開催日の4か月前くらいである。次回の会議で決定した場合、開催は12月頃になる見込みである。

【下條委員長】

7月くらいに決定すればよろしいか。

【事務局】

講師を決定し、スケジュール調整に入ることができれば、概ね順調だと考えている。

【佐藤ミネ副委員長】

県の会議で、「新発田の食はすごい」等の声を聞くこともあり、新発田市の「食」は、どこへ行っても通用するものだと感じている。しかし、「食の循環」と「食」は違う。「食の循環」の事を言えば、まだ市民にもそれほど浸透していないと思う。E委員がおっしゃった通り、自分でやってみて初めて、堆肥やその他の事が分かってくるのかなと思った。

また、私の息子は自分で本を読みながら農業をしているが、孫はその様子を見て、「将来は農家になる」と言っている。学校は子ども達に色々なことを教えてくれるが、保護者は様々で、虫が嫌だと言って、畑にキャベツを取りに行くことさえしない人もいる。そして、保護者のなかにはスーパーで買ったきれいな野菜しか食べない人もいるようだ。そこで、やはり子どもに注意されるというのは効果がある。

また、リレートークで子育て世代の方への啓発に力を入れることは非常に良いことで、若い保護者にとって非常に勉強になるだろうと思う。

【下條委員長】

子どもから大人への伝達が上手くいくことで、より効果的な啓発ができる だろう。
全般を通して委員の皆様からご意見等あれば発言していただきたい。

【F 委員】

新発田市の堆肥は市民が無償で手に入れることができるか。

【D 委員】

生産費用もかかっているの、購入していただくことになる。

【F 委員】

どこで取り扱っているか。

【D 委員】

NPO 法人ユー & ミーの会や農協等で販売している。最近、市民からの問い合わせも増え、相当な量を販売した。これまで興味がなかったが、少しずつ 興味が出てきたという人が多いようだ。

【F 委員】

鉢植えで栽培している方も多いので、少量でも堆肥を利用できれば嬉しい。また、 美味しいものができれば、口コミで堆肥を 買い求める方が今よりも増えると思う。

【D 委員】

有機資源センターの堆肥を使って3年くらい経つと、野菜の味が変わる。枝豆でも、キヤベツでも、甘みが出てくるのが分かる。

【F 委員】

せっかく良いものがあるのだから、もっと広めていきたい。

【下條委員長】

市街地に住んでいて、有機資源センターの堆肥がどこで販売しているのか知らない方は多いだろうと思う。確かに、家庭菜園用の堆肥の普及も大切だと感じる。

(6) その他

【事務局】

委員の皆様から貴重なご意見をたくさん頂戴した。事務局案を作成し、次回の会議でお

示しますので、よろしくお願いします。

4 その他

【事務局】

7月下旬に第2回推進委員会を予定しているので、よろしくお願いします。

5 閉会

【下條委員長】

少人数の組織となったこともあり、本日は活発な意見交換ができた。また、今年度から小委員会を設けず、事業内容等をすべて全体会議で議論することになったため、その都度集まっていたが、よろしく願いしたい。

第1回新発田市食の循環によるまちづくり推進委員会を閉会する。